

希望



猿神農業担手センター脇の空き地で、毎週日曜日に朝市が行なわれています。織笠で農業を営んでいる方々が組織している生産組合のみなさんが、自分で栽培した野菜や花を持ち寄り販売しています。組合のリーダーを務めている越田正一郎さんからお話を伺いました。去年の6月から始めた朝市ですが、当初は織笠第四仮設団地内へ猿神農業担手センターまでという要望だったそうです。しかし、仮設団地内ではなく道路沿いの場所を選んだのは、仮設に住んでいる方と地域の方々の交流の場になればという思いがあったからだという事でした。仮設住宅の皆さんは、震災により今までとまったく異なる環境で生活されています。

新しい場所での心機一転されている方、また、なかなか積極的に近所づきあいに踏み込めない方などいろいろとあります。朝市でにぎわう場所がちょっとしたキッカケになっただけという思いがあります。朝市は猿神農業担手センターのほか長崎の読売新聞の販売所前で行なわれています。これから寒さをむかえますが朝市は12月まで行なうそうです。年末には、切り餅の注文も承るそうです。

ほっとサポートセンターと県の作業療法士会が、昨年からは行なっている共同作業の一環として、9月から布ぞうり作りが豊間根仮設団地へ石峠橋と船越第8仮設団地へ浦の浜へ始まりました。ぞうり作りは、参加者の方々が持ち寄った浴衣やシャツ、布団カ

悪戦苦闘

長崎
毎週水曜日 6時57時
どちらの商品がなくなり次第終了になります。

こんな
あてきな
ぞうりが
できました



バーなど細長く切った布を、土台に固定した芯に巻きつけていきます。簡単そうに見える作業ですが、実際に参加している方に伺うと、ポイントやコツをつかむまでが大変で微妙な力加げが難しいそうです。何度もほめてはやり直し、片足を仕上げるのに3時間もかかるそうです。選ぶ布の色柄によっても、他にはない自分だけの作品に仕上がります。今後は、ほっとサポートの職員が作業方法を習得し、いきいき教室として集会所のある仮設住宅を中心に、行なう予定だそうです。

仮設住宅川柳
さきあとに 可憐に咲いてる コスモスの花
菊地 サカエ
此の指とまれ トンボもさうう 老いの手
福士 文子
田んぼの中 豆に負けずに 草ぼうぼう
野田 喜佑子
走ってみた 歩いてくれと 男孫が言う
大川 ヒメ子
あと何年 指折りかぞえる 年となり
下田 樂作

大沢野球スポーツ少年団の5年生が幸いる新チームが、県大会を勝ち抜き東北大会出場を果たしました。東北大会はニア市の大平球場で9月29日に行なわれ、結果は6回2で一回戦で敗退してしまいました。たが7対7のまま延長戦に入り、とても素晴らしい試合だったそうです。新チームから船越の野球少年団と合併になり6年生を含めると全員で29名と大人数となりましたが、監督の福士さんがおっしゃっていた通り、ずっと一緒に練習をしてきた仲間のように、チーム全体が一丸となっていました。それが強さの秘訣なのかもしれません。練習の合間

に友達同士でふざけている姿を見ながら「マイペースなチームなんですよ」と監督はおっしゃっていました。自分達のペースで練習に励み、楽しく野球をしてくれたらと思います。今後の活躍が楽しみです。

